

# 平成24年度 丹羽高校学校評価

平成24年12月実施のアンケート結果を受けて、各分掌・学年から出されたコメントです。

分掌	重点目標	評価項目	本評価
教務部	授業を大切にする。	7限授業に伴う増加単位、増加コマを活用し基礎、基本の習熟に努める。全体の底上げを工夫する。	46分7限授業も6年目に入り、慣れてきている。生徒への指導の工夫を教科・学年会等で検討している。
		46分間の授業を大切にする為に教員は生徒に迅速な行動を働きかける。	生徒にはこの時間が定着している。教員も生徒への働きかけを十分にしている。
		曜日変更等を行うことによって1単位当りの授業時間数の均一化を図る。	年度当初に1年間の時間数を計算して、均一化を図っている。月曜日の7限ローテーションがうまく機能している。
		教員の出張、休暇に伴う自習・課題を回避するために時間割変更を追求する。	担当者は努力しているが、時間割が硬直しているため不可能な場合も多い。しかし、自習・課題は少なくなっている。
		授業を大切にするために諸連絡を迅速、適正に伝達する。	しっかり行っている。
		定期考査を厳密に行う。	職員朝礼の場で教員に対して毎回注意をした。教員は厳密に監督した。
		学習アンケートを実施し、各教科、学年でも分析し、その結果を授業に活かす工夫をする。	学習アンケートを実施し、分析を行った。しかし、授業に活かすためにはまだ充分とはいえない。今後、授業等に活かせるように工夫したい。
生徒指導部	品位ある生徒の育成	制服の正しい着用	目標の「正しい着用」の達成は十分とはいえず、アンケートは妥当な結果といえる。しかし、「正しい着用」を心掛けようとする生徒は、今年も少しずつではあるかもしれないが、増加の傾向にあると考える。
		基本的な生活習慣の確立	今年度は、昨年度よりさらに遅刻等がとてまもなく良好な状態である。夏休み明けの9月が例年に比べてもよかった。生徒が、補習や部活動、丹靨祭準備などにしっかりと取り組み、長期休業中の生活習慣が正しく保たれた結果ではないだろうか。
		挨拶の励行	アンケートの集計結果からも、とても良い傾向をここ数年継続できている。挨拶は、基本的にはご家庭や地域に負うことが大きいと考える。これからも、挨拶のできる生徒がさらに多くなるように、学校での指導もしっかりとし、ご家庭や地域に貢献していきたい。
		整理整頓の推進	数年前の状態より、保健厚生部の働きかけの効果もあり整理整頓は良くなっている。教材の持ち帰りやプリントの整理などは、学習ために大切なことであり、社会でも求められることである。今後も継続的な指導をしていきたい。
進路指導部	進路について考える	生徒が自己の適性・能力・希望を正確に把握するため、進路に関する情報や資料を積極的に提供する。	各学年で進路通信を発行し、生徒に進路について考える機会を提供した。今後は、保護者・生徒に対して、より多くの情報をわかりやすく提供する方法を考えたい。
		望ましい職業観・社会観を育てるため、キャリアワークショップを開催するとともに職業体験等への参加を促す。	3年生を中心に一日看護体験・幼稚園実習に参加し、実際の職業を体験した。また、1年生でキャリアワークショップを開催し、職業観・社会観の育成をはかることができた。
		大学・学部・学科の理解を深めるためプチカレを実施し、オープンキャンパスへの参加等で主体的に情報を収集させる。	1・2年生を中心にオープンキャンパスへの参加を促し、多くの生徒が主体的に大学の情報を収集することができた。2年生でプチカレを開催し、学部・学科の理解を深めることができた。しかし、保護者・生徒と教員との評価にやや差があり、今後の課題としたい。
	進路実現のための学力の向上	補習に積極的に取り組み、校内実考・外部模試等を有効活用することで学力の向上を図る。	各学年で状況に応じた補習を実施することができた。3年生では夏休み以降その効果も少しずつあらわれてきた。今後も1・2年生には学力考査・学習状況リサーチ等の情報をわかりやすく提供し、学力向上を図りたい。
検討会を実施して生徒の学力・志望などを学年で共有する。その情報を個人面談や保護者会にフィードバックさせる。		3年生で検討会を実施し、さまざまな角度から生徒の状況を分析することができた。今後は1・2年生でも生徒の学力の分析につとめ、個人面談や保護者会への情報提供につなげたい。	
生徒会部	生徒会活動の活性化	生徒の主体的活動を援助し、生徒会行事の活性化を図る。	新入生OR、球技大会、文化行事、部活動清掃ボランティア、地域への一斉奉仕活動等各種行事において活性化できている。前期球技大会は6月に実施したが、準備日・当日ともに生徒はよく動いた。丹靨祭での活動も概ね活発で、総体的に本校生徒の行事に対する姿勢は積極的である。
		生徒会執行部・常任委員会の活発化を図る。	執行部・常任委員会とも、上級生は仕事をする中で下級生を指導し、伝統を伝えようとする姿勢と努力が見られる。一般生徒が見えないところでの活動をよくやっているが、生徒会活動が上手く伝わっていない点も否めない。広報活動や議員自身の声で全校生徒に活動内容が伝わるようにしていきたい。
		部活動の活動時間を確保し、守らせている。	熱心さからどうしても時間を超えて活動することもあるが、時間を守るという観点から見れば、何らかの形で下校時刻を遵守する方策を立てねばならない。
		部活動の活発化を図っている。	部活動指導に積極的な教員が多く、土日祝及び長期休業中を含めて生徒は生き生きと部活動に参加している。
		ボランティア活動を企画・実行し、地域との交流・地域への貢献を行う。	夏休み中のボランティア活動・丹靨祭での各種バザー・募金活動を行った。また、部活動清掃ボランティアを各部が積極的に行った。1年生の一斉奉仕活動は、マナー等の問題点を事前指導で徹底し、昨年度からの改善を図った。本校のボランティア活動はよく浸透していると考えられる。
総務部	保護者との連携(教育活動を積極的に公開する)	総会・学級懇談会に45%の出席を目標に担任から呼びかけをしてもらう。	学年が上がるにつれ出席率が低くなる傾向がある。今後も学年との連携をこれまで以上に密にして、2、3年生の出席率を上げるよう努力していく。
		各学年で最低1回は公開授業を実施し、実施後、保護者・生徒にアンケートを行い、授業改善に役立てる。	曜日の関係で公開授業時の科目が同一にならないように改善を図る。また、アンケート回収率についてもさらにアップさせるような工夫を図る。
		総会、公開授業等の案内を充実させることで出席率を高める。学校ホームページにも載せて広報する。	案内及び当日の様子について、学校HPを使って広報を充実させた。
		保護者会、地区別PTA、理事会等において保護者の意見、要望を聴取またはアンケートを実施して、その結果を「丹羽高だより」やホームページを利用して報告する。	各行事後実施したアンケート結果を、学校HPなどを通して迅速に報告することができた。

学年	重点目標	取 り 組 み	本評価
図書部	読書指導の推進	校内読書感想文コンクールを、実施する。	例年通り、校内読書感想文コンクールを実施することができた。
		読書への関心を高めるために、多読者表彰・雑誌展示会など各種イベントを実施する。	多読者表彰、イベント表彰、雑誌展示会、読書会など各種イベントを実施することができた。
		図書館だよりを定期的に発行し、推薦図書や話題の本を紹介する。	生徒図書委員が発行する「図書館だより」と、図書部からのお知らせ「NKT4」を定期的に発行し、図書館からの情報発信に努めることができた。
		季節に応じた図書館内の飾り付けを充実させる。	図書館内と図書館前の掲示板を利用して、季節の飾り付け、新着図書の紹介等を充実させることができた。また、図書館内の本の展示を新たに作成した展示台を使い見易くすることができた。
		生徒のリクエスト本にできるだけ応える。	限られた予算の中で、本を吟味し、生徒のリクエストに応えることができた。
保健厚生部	校内の環境美化に努める	啓発活動を、全体指導としては朝礼で、それ以外ではLT・ST時に、大掃除等機会ある毎にクラスに於いても意識づけをする。	清掃点検の結果報告、美化だよりでの啓発機会を増やしたことで、十分に意識付けはできたと思う。
		ゴミの分別を徹底するように、また、ペットボトルや空き缶を放置しないように指導する。	厚生委員による分別活動(最終ゴミ処理場、クラスのゴミ箱の点検等)は充実していたと思われる。ペットボトルや空き缶については、捨てる場所の限定をしたことで無分別状態は無いと思われる。
		通常の清掃時間10分間や特別清掃の時間帯において、時間を有効に生かし、きちんと活動するよう指導する。	通常清掃では教員の指導が不可欠で、十分に指導してもらっている。が、生徒自らが積極的に活動する者は少ないのが現状である。
		清掃点検を実施し、優良箇所は発表し、不良箇所については清掃監督者及び清掃担当生徒に連絡し、注意をする。	清掃点検を実施し、優良箇所は発表し、不良箇所については清掃監督者及び清掃担当生徒に連絡し、注意をすることができた。
研修部	職員の資質向上を目指す。	各教科の研究授業の実施を通し、授業能力の向上を目指す。	今年度より全教員、3年に1回の実施となった。予定より遅れ気味であるが、年度内で予定者全員が実施見込みである。同一教科の教員がもっと参観して、授業方法を検討しあうことが必要である。
		現職研修を、充実した内容として、参加者の増加に努める。	避難所運営・情報化推進(ICT活用)・教育相談・年金という充実した内容であった。年金は今退職するとどうなるかの内容に限定した。実施日は定期考査午後であったので、参加者の増加は難しいかもしれない。
		学校評価を実施することにより、学校改善に役立っている。	学校改善に役立っていると思われるが、実施方法・内容の検討を続けたい。保護者・生徒の学校評価閲覧者はまだ30%以下である。学校評価アンケートの回収率は全体で87%、教職員(講師込)で92%であった。
第3学年	基本的な生活習慣を確立させ、社会人としての最低限のマナーを身につけさせる。	挨拶をしっかりとさせる。	全体としてはよくできている。
		整理整頓をしっかりとさせる。	ロッカー内はまだ不十分な生徒がいる。継続指導が必要である。
		身だしなみを正させる。	ルーズな生徒も見受けられ継続指導・声かけ指導が必要である。
	進路実現に向けたきめ細かなサポート体制の確立。	朝学・土曜学習・特別講座・センター演習・補習に積極的に参加させることにより基礎学力・応用力の向上を目指し、全員第1志望校の合格を目指す。	自分の目標意識を持っている生徒が増えてきているが、十分とはいえない。基礎学力・応用力の定着を図るため、さらなる指導を実施していきたい。
進路目標達成のための学習時間の確保。	居残り学習へ積極的に参加させ、また「生活記録」を記録させることにより、家庭学習時間を確保させる。	受験も近づき積極的に居残り学習・業後の特別講座学習に参加する生徒が増えてきた。	
第2学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶をしっかりとさせる。	全体としてよくなるようになってきた。
		時間を守らせる。	8:30からの早朝学習もあり、正規の遅刻はほとんどない。集会などでの集合状況もよくなってきた。
		整理整頓をしっかりとさせる。	呼びかけを続けているが、なかなか徹底しない。継続して指導していきたい。
		身だしなみを正させる。	職員間で共通の認識を持って粘り強く指導していきたい。
		「生活記録」を通じて、家庭における生活時間帯の指導を行う。	しっかりと提出できない者が一部いたが、生活リズムをつけ学習時間を増やすようにプッシュするためにも継続して実施していきたい。
	具体的進路目標の設定	調べ学習やオープンキャンパスに参加するなどして具体的な進路目標を持たせる。	夏休みにオープンキャンパスに出かけるなど、意識を持たせることができた。
土曜学習を実施し、進学意識を高める。(6月から)	部活動との関係もあり、参加人数が少なかった。もっとたくさん参加できるように呼びかけをするためにも、学年単位ではなく学校全体で考えていくことが必要である。		
第1学年	品位ある39回生を目指す。	挨拶をしっかりとさせる。	過去の1年生に比べても、本当によく出来ている。2年次も継続していけるように、挨拶の大切さを指導していきたい。
		時間を守らせる。	8:30着席指導もあって、連絡無しの遅刻は年間を通してほとんど無くとも良好であった。提出物の提出期限については、守れない生徒が各クラス固定メンバーで存在した。2年次も8:30着席指導を含め継続指導をしていきたい。
		整理整頓をしっかりとさせる。	ロッカー内の整理整頓については、大半の生徒がよく出来ているが、一部の生徒については不十分である。2年次も今年度以上に強力に指導していきたい。
		身だしなみを正させる。 (特に女子のベスト着用をすすめる)	女子のベスト着用は特に夏の暑い時期以外はほぼ全員着用させることが出来た。ベストの着用を通じて着崩しがかなり改善され、身だしなみ指導としてとても効果的であった。
	週あたり21時間の家庭学習を達成する。	「生活記録」を毎日記録させることによって、起床・学習・就寝の3点の時間を固定させる。	たんに学習時間の記録にとどまらず、毎日の生活の点検という観点では大きな役割を果たしたと考える。2年次に向けても「生活記録」を通じての、個々の生徒指導をより充実していく必要があると考える。
		早朝学習を行わせる。	登録者は全体で50名とかなり少なかった。登録した生徒については、とても意欲的であり成果も出た。2年次に向けては早朝補習とからめて、その指導方法を工夫したい。
		週末課題をはじめとして具体的指示を行う。	具体的指示はしっかりと出来ており、大半の生徒は指示に従ってよく努力した。ただ、提出のためだけに消化する生徒もかなり存在した。2年次もより具体的な指示に心がけながら、提出のためだけに消化する生徒の指導を強力に進めたい。